



枝光台中だより

令和4年3月24日
校長室通信 第12号
文責 校長 幸野 英明

社会に開かれた教育 私たちの生活は社会とつながっている

これほど、社会の動きが気になることがあったでしょうか。新型コロナウイルス感染症とそれに伴う社会の動向、ロシアとウクライナの関係が及ぼす国際情勢の変化、地震や豪雨などの災害の被害、などによって学校生活が制限を受けたり、普段の生活に必要な物の値段が上がったりして、私たちの日常生活は大きく影響を受けています。そのため、多くの場所で生徒の皆さんも、これらの情報に触れる機会があると思います。

本校では、国語科の織田先生を中心に、NIE（新聞を教育に）の学習をしています。先日、これまでの取組をまとめていただきました。特に、新聞のコラムを使った取組では、日頃、聞くことのできない生徒や保護者の皆さんの思いをうかがうことで学校と家庭がつながり、さらに、子供と保護者をつなぐ「対話」の架け橋としての役割も果たしているように思えます。

特に、そのことがわかる保護者の感想を、本年度のNIE実践報告書より紹介します。

新聞コラムは、短い文章の中に端的に事実と意見が述べられています。また、的確にまとめられている文章なので、読むにも良く、真似て書くにも良いと自分たちが言われて育ちました。

新聞や活字を読む機会が少ない子どもたちもいると思うので、とても良い取組だと思います。「興味ない」「やる意味ない」という子供がいたとしても、大人になって世の中に出ていく中で、したくないこと、興味のないことでもやらなければならない時に、理不尽に耐えて乗り越えなければならない場面への耐性を付ける意味でも良いと思います。何より得てして、自分の興味のある内容にしか目が向かないものなので、何かしら提示してもらえると万遍なく時事やライターの見点・意見に触れる機会となり、その中で新たな気づき、ものの見方ができるようになるチャンスもあるのではないのでしょうか？親として絶対に続けてほしい取組の一つであり、大変感謝しています！また、子どもの感想を読んで、本当に嬉しくなりました。

保護者の方の感想からは、新聞コラムの文章としての良さとともに、苦手なことにも逃げずに取り組むことが将来への生きる力につながるという思いを受け取ることができます。

昨年度、NIE全国大会の記念講演で、作家の真山仁氏が、「大学生でも新聞を読まず、SNSの書き込みや、ブログのみを信じる。SNSやブログの内容については、自分の考えを追認するものしか信じない。自分の考えと異なるものは見ようもしない。新聞を読むと、知らないことがこれだけ多いのかと気付く。そこから、知らないことを知ろうとする努力が始まる。」と語っていました。

本年度の全国学力・学習状況調査の結果からも、本校では携帯電話等を見る時間が長い生徒は多く、新聞を読んでいる生徒は少ないことがわかりました。だからこそこれからは、新聞も含めた確かな情報から学び、皆さんが社会とつながっていること実感することで、学びに向かう気持ちを高めてほしいと思います。



3/1 公立入試に出題されたパラスターをブックトークで紹介。



3/8 日々の学習を生かして百人一首大会を楽しむ1.2年生。



3/10 本校を巣立っていった、55名の卒業生の皆さん。



3/22 寄付と社会貢献について、外部講師から学ぶ2年生

【今後の主な行事予定】

4月 7日（木）始業式
4月11日（月）第22回 入学式
4月12日（火）対面式
4月19日（火）全国学力・学習状況調査
4月22日（金）こども読書の日の取組
4月25日（月）～28日（木）家庭訪問

5月17日（火）農村民泊体験学習 2年生（国東）
～19日（木）
5月30日（月）修学旅行 3年生（関西方面）
～6月1日（水）

※新型コロナウイルス感染症等の影響により予定が変更になることがあります。

